

佳作

土砂災害で感じたこと

豊橋市立南陽中学校 3年 古田 陽菜

私は、土砂災害を実際に見たことがありません。ですが、ニュースで何度か見たとき、崖から大きな岩がごろごろと音を立てながら落ちていく様子、土砂災害によって、家がつぶされている様子を見て「こんなに被害が大きいのか。」と、衝撃を受けました。そこで今回、この土砂災害についての作文を書こうと決めました。

私が考えたことは三つあります。

一つ目は、土砂災害のこわさについてです。土砂災害といえば山や崖がくずれて、山の斜面がむき出しになってしまったり、山などがくずれたことにより、木が折れて倒れたりしている様子を思い浮かべるのではと思います。土砂災害について、調べてみると、土砂災害は大雨や豪雨によって起きていることが分かりました。大雨や豪雨での浸水、川の氾濫などの被害に合わせて土砂災害が起きると思うと、岩や木などが落ちたり倒れたりして家がつぶされてしまうかもしれないなどと、不安が増え、とてもこわいと強く感じました。そう思うと、土砂災害は地震や津波、大雨などと同じくらい大きな災害だと、改めて考えました。

二つ目は、土砂災害に向けてどのような対策をすればよいのかということについてです。一つ目では、土砂災害のこわさについて、よく分かったのでどのように対策ができるのか考えました。まず、土砂災害が起きる前は、大雨や豪雨などの災害が起きることが多いです。なので、山や崖など土砂災害が起これそうなところの近くに住んでいる人は、大雨や豪雨などの災害が起きるといふニュースや起きてしまったら土砂災害が起これにくいところに避難することが当たり前かもしれませんが、一番大切だと考えました。そうすることで、自分の命を土砂災害から守ることができます。家族や町の人みんなで土砂災害についての対策、避難経路や方法など土砂災害が起きてしまう前に事前に話し合っ、決めておくことが土砂災害での被害を減らすことにつながると思います。起きてからでは遅いので土砂災害が起きる前にしっかりと対策をしないといけないと考えました。

最後、三つ目は、土砂災害に向けて、これからどうしていきたいかについてです。土砂災害は、自然に起こる災害です。未然に土砂災害を防ぐことは、とても難しいと思います。ですが、土砂災害が起きてしまう前に対策をしっかりとすれば、被害を最小限にとどめて、減らすことは、できると思います。土砂災害に向けて、自分にできることは今回、この土砂災害のこわさやどのような対策をすればよいのかということについて考え、土砂災害についてよく考えた結果、この考えたことを家族や地域の方たちなどの身近な人に土砂災害のこわさや対策などについて、知ってもらうことです。土砂災害について、知ってもらえることができたなら、家族や地域の方たち、町全体で土砂災害に向けて対策をし、備えることができます。そうすれば、土砂災害から町の人たちを助けることができると考えました。家族や地域の方たちなどに土砂災害について、知ってもらうには、このような作文やポスターをかくて、町の人たちに呼びかけをしたり、土砂災害について知っている知識や情報を家族や地域の人たちと話し合い、共有したりすることが大切だと考えました。もしそのことができたなら、土砂災害についてよく知ることができ、土砂災害の危険さを身近に感じ、町全体での土砂災害へ向けての取り組みがもっと増えて、広がると思います。

今回、土砂災害について、あまり知りませんでした。ですが、この作文を書いてみて、土

砂災害のこわさや対策、どうしていけばよいかなどについて、知り、深く考えることができました。そして私は、もっとたくさんの人たちに土砂災害について、よく知ってほしいと強く感じました。なので、これからはもっと土砂災害について調べたり、家族とも土砂災害のこわさや対策などを話したりして考えを深めていきたいです。土砂災害は未然に防ぐことはできませんが、土砂災害で亡くなってしまった方たちがもう二度と増えないように自分にできることは何か、よく考え、呼びかけなど土砂災害への取り組みをたくさん行っていきたいと思います。そして、少しでも土砂災害の被害が減ることを願っています。

佳作

常日頃から

岡崎市立美川中学校 1年 早川 涼

皆さんは土砂災害にあった事はあるだろうか。土砂災害の件数は年々増えてきていて、昨年の土砂災害件数は1471件と、とても多い。特にがけ崩れが多く1200件以上。そこで気になったのが、なぜ日本はこんなにも土砂災害が多いのかと、その土砂災害をできるだけ被害を少なくする方法を考えて逃げ遅れてしまったということ減らしていきたい。

まず、日本はなぜこんなにも土砂災害が多いのかに関して、まず一つにテレビやネットでもおおく見かけるが、大雨、地震が原因の土砂災害。一度、総合の授業で実際に土砂災害が起きる映像を見て、短時間の豪雨でこんなことになるんだという恐怖を感じました。そして、地震でも今年起こった能登半島地震でも、余震が長く続いたので、440件以上の土砂崩れがおきた。正直、大雨だけで土砂災害が起これると思っていたが、地震でも大きな土砂災害が起これるということが分かった。他の地震でも土砂災害は起きており、東日本大震災や熊本地震、淡路大震災の時にも土砂災害が起これる。何故地震だけで土砂災害が起これるか調べたところ、地震の強いゆれで地盤がゆるみ、土砂災害が起きやすくなると書かれていた。このことを調べていて、近頃注意されている南海トラフ巨大地震でも大きな土砂災害被害が起これるのではないかと思った。僕の家のは後ろは神社があり、土で盛ってあるので大雨の時は少し警戒していかないと考えた。そして二つ目に、驚きだったのが火山による土砂災害。地震や大雨に比べたら少ないが、テレビでたまに見て被害の大きさに驚いたことがある。日本は山が多いせいか火山も多くあり、桜島や御嶽山は聞いたことがあるだろうか。火山での土砂災害では、およそ5kmの小規模な噴火が一番多いが、先程言った御嶽山では、100km以上も火山灰が降りそそいだり、火山噴火ででた岩の塊が激しく降り、大きな被害を出す事がまれにある。御嶽山は2014年にも噴火していて、過去にも三回程火山の噴火で大きな被害を出している。ニュースでは桜島が噴火したというのを結構なひんどで見かけるが、これも地球温暖化の影響なんだろうかと思った。書いた通り、地球温暖化が多少関係しているらしく、特に気温の上昇が火山噴火や強い地震の数の多さに拍車をかけていると、自分は結論付けた。二つ目に土砂災害の被害を少なくする方法だが、これには三つ被害を防ぐ方法がある。一つ目は天気予報アプリやテレビの速報を適度に見ておく事。この事をしておくと、後から降る大雨にも慌てず対処ができ、安全にひなんができるようになる。テレビで見たが、実際にこういった事があり、大雨が降る前に住民がひなん出来たというケースが結構ある。二つ目は、あらかじめひなん経路や場所を確認する。一つ目と似たり寄ったりな効果だが、これも適度に家族と確認することが大切。デメリットがあるとすると、いつ大雨が降るか分からないので、予測できない所。三つ目は、土砂災害の前兆を覚えておく事。色々な種類があり、少し紹介すると小石がパラパラ落ちてくる、降雨が続くのに川の水位が下がる、泥臭いにおいがする、山鳴りや木がたおれる音がする、など、分かりやすい前兆もあれば川などの近くにすんでいないと分からない前兆もある。これを覚えるだけですぐに土砂災害が起これると気付くことが出来る。そしてさらにその事を近所の方にも注意を呼びかけることが出来る。前でも後でも、常日頃から土砂災害に対して危機感を持って対策しようと思えた。

題名にある通り、僕は常日頃から土砂災害への対策が必要だと考える。そうさえすれば後からこうしとけば良かったやああしとけば良かったといった後悔を減らせるし、何より、対

処方法を知っていて、それを他人に教えられるという事が一番大きいと思う。ニュースでも急な土砂で流されて亡くなっていった方もいる。その人の後悔を残さないためにも、常日頃から対策が必要ではないか。

佳作

「土砂災害の危険性」について

豊橋市立南部中学校 3年 浅野 桜也

私は最近よくニュースで土砂災害という言葉を目にします。今年は今までよりも多い大雨といわれています。その大雨が原因で土砂災害が多くなっています。とくに大雨のひどい広島県で土砂災害が多くなっています。今までで亡くなった方もとても多いです。土砂災害は大雨や地震などによって起こります。土砂災害の危険性は三つあります。

一つ目は、土石流危険渓流です。土石流の発生の危険性があり、一戸以上の人家に被害を生ずるおそれがある渓流を「土石流危険渓流」としています。

二つ目は、急傾斜地崩壊危険箇所です。傾斜度三十度以上、高さ五m以上の急傾斜地でその斜面が崩れた場合に被害が出ると想定される区域内に人家が五戸以上ある箇所を「急傾斜地崩壊危険箇所」としています。

三つ目は、地すべり危険箇所です。地すべりを起こしている、あるいは起こす恐れのある区域で河川、公共施設、人家等に損害を与える恐れある箇所を、「地すべり危険箇所」としています。また、次のような現象を察知した場合は、土砂災害が直後に起こる可能性があります。

それは、山鳴りがする、急に川の流れが濁り流木が混ざっている、沢や井戸の水が濁る、がけから水が湧き出ているなどの現象が起こると土砂災害が直後に起こる可能性があります。その時は周りの人と安全に避難することがとても大切です。

次は土砂災害が起こりやすい場所です。それは扇状地山間部の大雨によって山崩れが起こる川が山地から平地へと流れ出るところにできた扇状の土地を直撃する可能性があります。造成地では地質・地形が不安定で大雨が降ると地盤がゆるみ、崩れる危険があります。例えば広島県、島根県、山口県などです。また土砂崩れが起こりやすい時期は、短い時間にたくさんの雨が降る「豪雨」や数日間雨が降りつづける「長雨」の時に発生しやすくなります。そんな土砂災害に逃げる方法があります。

それは、土石流は速度がものすごく速いです。なので土砂の流れる方向に対して逃げるのが大切です。また、逃げるだけではなく備えることも大切です。例えば、土砂災害ハザードマップを確認し、付近の危険箇所、安全に避難できる施設の経路を把握することが大切です。

私が住んでいる愛知県は7月上旬に大気の状態が非常に不安定で激しい雷や激しい大雨が降りました。東海三県の中では低い方で土砂災害の被害はありませんでした。ですが、愛知県の中でも土砂災害に厳重警戒するということもあがっていました。愛知県を含めた東海三県はあまり土砂災害のニュースはあまり見ません。なので、「ここはあまり土砂災害がないから大丈夫だ。」とか思いました。でも、愛知県内でも大雨が降ることがあるのでいつまでも大丈夫なように、しっかりと備えることが大切だと思いました。しっかりと家族と話し合っただけで避難経路や安全な道を確認し合うことができたらいいなあと思いました。

一方、大雨や土砂災害の影響が強い広島県はやっぱり梅雨の季節が一番大雨や土砂災害の危険が高まる季節で広島は土砂災害警戒区域が全国で一番多くて広島は四万七千カ所以上あります。広島県の土地は約七十%を山地が占めていて山地は主に花こう岩という岩石でできていて花こう岩は長い年月とともに風化して柔らかくなります。そしてそこに大雨が

降ると土砂災害が起こってしまいます。

私がよくニュースでよく耳にする土砂災害には、たくさんの方が詰まっていた。土砂災害について全然知らなかったけど、土砂災害がどうやって起こるのかや、どうやったら逃げることができるかを、たくさん知ることができました。私の住んでいる愛知県は土砂災害はあまり起こらないけど、大雨などはよく降ります。なのでいつ土砂災害が起こるのか分からないので他人事だとは思わず、しっかりと備えることができるといいと思いました。改めて、「土砂災害」という言葉を耳にしたら、「自分にも関係がある」と思って聞くことができればいいと思いました。

佳作

もし、土砂災害が起きたら

豊橋市立豊城中学校 1年 岩井 大悟

七月二十七日に、山形県と秋田県で記録的大雨があった。大雨が起こったことで、川の水量が増え、洪水が起こってしまいました。大雨が起こることで、水害、土砂災害の両方起こる可能性もあります。

洪水の仕組みとは…大雨や雪解けによって、水かさが上がり始めます。堤防いっぱいまで水が増えると、土でできた堤防に水の圧力がかかり始めます。水が増え、水の力に耐えられなくなると、堤防の一部が崩れはじめます。堤防の崩れた場所をとおって、勢いよく水が流れ出し、家に襲いかかっています。

この洪水によって一人が遺体で見つかり、警官ら三人が行方不明になってしまいました。山形県と秋田県は、今でも土砂災害の危険が高い状態が続いています。

豊橋市には、石巻山という山や、吉祥山という山があり、これらの山は、土砂災害警戒区域になっていて、もし、大雨が降って土砂災害が起きた時に山の近くにいたら危険で怖いなと思いました。

ですが、ただ怖いなと思っているだけでは、土砂災害が起きた時に逃げられなくなってしまいます。

土砂災害には、がけ崩れ、土石流、地すべりの三つの種類があります。

これから、三つの土砂災害の仕組みを説明していきます。

がけ崩れの仕組みとは、急な斜面が雨水の浸透や地震などの影響によって、突然発生し、崩れるスピードは、地すべりより、何倍も速い。崩れた土砂は、斜面の高さの2～3倍も離れた距離まで届くことがあります。がけ崩れは、突然起きるため、人家の近くで起きてしまうと、逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなってしまいます。

地すべりの仕組みとは、大雨が降り続けると地下に水がたくさんしみこみ、水を通しにくい粘土層の上に水がたくさんたまると、その水の力にもち上げられて、粘土層をさかいに上の地面がゆっくりと動き出していく仕組みになっていて、土塊の移動量が大きく甚大な被害が発生します。

土石流の仕組みとは、長雨や集中豪雨によって、土や石や岩が水と混じりあい大きな塊になって、谷を削りながらどんどん大きくなって一気に下流へ流れ落ちる現象です。土石流の多くは市街地を走る自動車と同じくらいの速度。時速約四十～五十キロメートル程度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまうこともあります。土石流の多くは、雨が引き金となって起こりますが、雪国では、雪解け水が原因で起こることもあります。

そんな土砂災害でも、備えをしていたり、土砂災害の前兆現象を知っていれば、生き残れる可能性が上がります。

がけ崩れの主な前兆現象には、がけにひび割れができたり、小石がパラパラと落ちてきたり、がけから水が湧き出たり、湧き水が止まったり、濁り、地鳴りがする。などがあるそうです。

地すべりの主な前兆現象には、地面がひび割れ、陥没したり、がけや斜面から水が噴き出したり、井戸や沢の水が濁ったり、地鳴りや、山鳴りがしたり、樹木が傾いたり、亀裂や段差が発生する。などがあるそうです。

土石流の主な前兆現象には、山鳴りがしたり、急に川の水が濁り、流木が混ざり始めたり、腐った土のおいがしたり、降雨が続くのに川の水位が下がったり、立木が裂ける音や石がぶつかり合う音が聞こえたり、下流で焦げたようなにおいを強く感じる。などがあるそうです。

前兆が起こったのが見えたり、感じられたら、早めに安全な所へ避難し、最寄の土木事務所、市町村へ通報することが大切です。

僕の父は、元消防士で、色々な事を経験したそうです。僕は、父に土砂災害が起きた時気をつけた方がいいことを聞きました。

山のふもとにある家の人、一階は土砂に埋まる確率が高いので、まず、二階に避難する。窓が割れるかもしれないので、山側の窓から離れた場所に避難する。そして、二次災害に気をつける。土砂災害が起きて、避難所に避難した翌日に避難指示が解除されていないのに、荷物を取りに家に帰って、帰った時に、大雨が起きて、土砂災害に巻き込まれてしまった人がいたそうです。

これから大雨が起きて、土砂災害の前兆現象が起きたらすぐ避難して、安全になるまでは、安全な所にいようと考えました。今後は、普段の生活から、災害のリスクを考えて行動していきます。